



益世地区社協の現状と課題

益世地区社会福祉協議会
会長 近藤清二

I. 益世地区の概要

- ・宅老所「さんさん」のある益世地区は、JR・近鉄桑名駅南1kmの近鉄益生駅をほぼ中心とするエリアであり、1小学校(益世)、2中学校(明正・光風)がある珍しい地域でもあります。東北端には市役所もあり、一応、桑名市の中心部と言えます。
- ・地域は、主に昔からの住宅地であるが、西北部には、昭和30年代の開発初期に丘陵地にできた新興住宅があり、高低差のある地域と言えます。
- ・また、大型店舗の進出により、個人店舗が段々消失していく現況は何処も同じで、寂しさを感じますが、近年、名古屋への通勤の便の良さから、益生駅周辺には、高層マンションが5～6棟できております。
- ・ただ、宅老所「さんさん」へ来所する場合の最大のネックはJR・近鉄に分断されていることであります。

II. 益世地区の統計的数値

・地区内には、64自治会が存在し、312班、2,969世帯であり、地区の高齢者を中心とする数値は、

	人 口	65才以上人口	75才以上人口
益世地区	7,655人	2,214人(28.9%) (市内22地区中 第6位)	1,188(15.5%) (市内22地区中 第5位)
桑名市	142,510人	33,273人(23.3%)	14,975(10.5%)

従って高齢化が進んでいる地域の一つであります。

III. 宅老所「さんさん」の運営

- ・平成13年に開所され13年目を迎えており、市内で最初の宅老所であります。「さんさん」は、太陽の光が【燦々】とふりそぐ部屋で、笑顔で過ごしていただくことを願って命名されたものであります。
- ・毎週火曜日 午前10:00～午後4:00まで、益世幼稚園の1室をお借りし、開催いたしております。25年度は会員数は63名、開催日は48日、延べ1,040名参加があり、前年度より200名増えております。
- ・益世地区社協の中心的な事業は、なんとと言っても宅老所「さんさん」の運営であり、高齢化社会の中で、喜んで、多くの方に利用していただき、より充実したものにしていかなければなりません。

・ボランティアは、地区の民生児童委員、婦人会29名にて色々な事業を展開し、元気で「さんさん」へ来て、喜んでいただけるように「おもてなし」の心を持って一生懸命高齢者のお世話をしています。



IV. 宅老所「さんさん」の事業

・益世幼稚園内に開設ということもあり、特に幼稚園児との交流を大切に、

- 社会福祉協議会 ● 音楽療法推進室 ● 中央保健センター ● 南部地域包括支援センター
- お話宅配便すきっぷ ● 社協の保健師のご協力をいただき事業をしています。

また、当地区独自のものとして、地元医師の協力のもと、高齢者健康講座の開設、歌謡・マジック、押絵を通しての継続的な作品作り、そして軽運動・ボール遊び・紙細工・絵画(ぬり絵)など各種取り組んでいます。

V. 今期の新規事業

・地理的に問題があれば、来所するのを待つのではなく、関心がある企画、また空き場所を見つけて、行動することが大切と思っております。

・特に男性の参加を促すため、小学校の家庭室をお借りし料理教室と幼稚園の空き部屋にて囲碁、将棋の場を設けました。男性は女性に比べ引込み思案なところがあり、無理やり勧誘してでも来ていただければと思います。

・今回から地元の歯科医院の先生にも協力を得て、健康講座を開設しました。

・そして、当社協独自の地域性を考え、前年度より移動宅老所を1か所増やし、4か所として、音楽療法と認知症の介護予防のお話をさせていただくことになっております。前年度は87名の内8割が初めての参加でした。

VI. 宅老所「さんさん」の課題と取組

・宅老所「さんさん」の参加者が固定化している状態で、気楽にお越しいただけるように、事業の案内も会員、地域の方々にお知らせはしておりますが、ひと押し、お誘いが必要である。

PRに努め、催しについては、2回案内を出すようにした。

・現在ボランティアとしてご協力いただいている方々が高齢化してきているので、幅広く協力を求めていかなければならない状態です。

・事業の展開については、関係団体、学校(園)絶大なる協力をいただき感謝しております。

VII. 事例発表

・要支援者の家族の方から、市の高齢福祉課へ電話があり、「デイサービスへあまり行かなくなったので、どうしたらいいだろうか」ということでした。その情報がこちらに入りましたので、早速、連絡をし、「さんさん」へ来ていただ

きました。

その日1日過ごされて、自宅へ帰られましたら、お嫁さんから「今日はおばあちゃんが楽しかったと言って喜んで元気になって帰ってきました」と連絡がありました。

私共、お世話をしているものとしては、こういういい話はより一層励みになります。現在も元気で「さんさん」へお越しいただいております。

VIII. 今後への考え方

・当地区の総会でもちょっと偉そうなことを言いました。

ケネディ大統領の就任演説の言葉を引用させていただきますと、【人が何かをしてくれるのではなく、自分がなにをするか】だと思います。

これからも高齢化が進むなか、私たちの役目は大切であります。関係団体と協力し合い、お互いに知恵を出し合って高齢者の方々に安心で、喜んでいただけるような地区にしていかなければならないと思っています。

IX. 地域包括ケアシステムへの取り組み

・6/18 社会福祉協議会から、地域包括ケアシステムにおける生活支援サービスを、益世地区で実施していきたいとの問いかけがあり、第1回目の打合せ会を開催。(市社協、益地区社協)

(会議内容)

- ・地域包括ケアシステムにおける介護予防・生活支援サービスの必要性、地域での取り組みの事例、桑名市社協として一緒に取り組んでいただきたい旨の説明(益世地区の地域性やニーズを的確に把握した上で、市社協と共に実施していきたい)
- ・宅老所「さんさん」にゆるやかに地域の人々が集まり、そこを拠点に介護予防と生活支援サービスを展開できたらいい。具体的には、男性利用者が来てくれるような工夫。「さんさん」へもっと人が集まるための様々な障壁を取り除いていく
- ・生活支援サービスを進めるにあたり、担い手になる人が少なく、養成していく必要がある。市社協と地区社協が共同で、生活支援サービスサポーター養成講座(様々な人が集まるような魅力ある講座)を開催することを決める
- ・今後、市社協の他、地域包括支援センター等、関係機関に参加要請し、有意義な会議としていく
- ・6月下旬に伊賀市柘植地区まちづくり協議会、7月上旬に大垣市地区社協青野ふるさと村を視察予定

